



王一だより

令和2年10月号
北区立王子第一小学校
校長 荒木 康子

教育目標  仲良く助け合う子  身体をきたえ元気な子  よく考え最後までやりぬく子  親切で礼儀正しい子

成長と活躍 ～「たい」と「かえる」のいる学び～

校長 荒木 康子

新型コロナウイルス感染症拡大防止により、年度当初から多くの教育活動に制約がかかり、先の見えない不安を抱えながらの1学期から、成長と活躍をもたらす2学期を迎えます。

保護者の皆様には、10月31日（土）ミニ運動会「ぴかりンピック」で子供たちの運動する姿を観ていただきます。今年度に入り、初の公開ともなります。楽しみにしててください。



「授業は『たい』を育てなくてはいけない。」とは、私が若手教員と言われていたころの先輩教員からの教えです。「たい」とは、「知りたい」「考えたい」「はっきりさせたい」という子供自らが目的をもって学びに向かう力のことです。主体的な学習、能動的な学び、関心・意欲が高い授業など、いろいろな言葉がありますが、その先輩教員は、それら全てをシンプルに「たいが元気に泳ぐ授業」と呼び、子供が疑問や魅力を感じて、自ら学びに働きかける授業の工夫がされていました。

新しい学習指導要領のキーワードにある「主体的・対話的で深い学び」を実現する鍵は、この「子供の中にいるたい」を育てることにあるのではないかと捉えています。

そして、「授業は『かえる』を育てなくてはならない。」と、付け加えました。この「かえる」とは、「かんがえる」「まちがえる」「ふりかえる」という3つの思考の場面です。

「かんがえる」ことは、あれこれと思いをめぐらせたり、自ら考え判断したりする学びで、自分自身に向き合う力を育てます。

「まちがえる」ことは、誤りを素直に認める知的な勇気や正直さ、試行錯誤を重ねて成功に導くねばり強さを育てます。相手のまちがえに対する寛容な態度も育ちます。

そして、「ふりかえる」ことは、経験を学びに転換し、生きて働く真の知識に高めます。「自分を積極的にかえる（変える）」ことにもつながります。

王子第一小学校では、2学期に入り、これまで以上に学校全体で子供たちの中にいる「たい」と「かえる」を育てていきます。また、それは学校だけでなく家庭や地域とともに目指したい教育の方向でもあります。そのためにもこれからの教育課程は社会に開かれ、時代が求める資質・能力を家庭と同じ目線で共有していくことが大切であると考えます。

2学期は、ミニ運動会「ぴかりンピック」と展覧会の2大行事があります。それぞれの取り組みには工夫があります。私たち教職員も「たい」と「かえる」の姿勢で取り組みたいと思います。ご協力、よろしくお願いいたします。